

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

国語

文章構成の工夫についての理解を深め、
物語に込められた寓意を読み取る
北海道遠軽高校 島田 亮

8:45 本時の学習内容を提示



前時に生徒は、『星の王子さま』の中で理解できなかった部分をワークシートに記入した。本時は、それを受けて、多くの生徒が理解できていなかった「王子とこだまとの対話」を取り上げ、その読解を深めていくと、島田先生は伝えた。

本時の概要

【対象／教科／科目】3年生／国語／現代文B
 【分野・単元】『星の王子さま』ほか（全8時間のうちの4時間目。P.43に本時の指導計画を掲載）
 【育成を目指す資質・能力】知識・技能、主体性
 【学習内容】前時までの『星の王子さま』の読み取りにおいて、多くの生徒が理解できていなかった「王子とこだまとの対話」を取り上げ、ペアワークやグループワークを通じて、表現や文章構成の工夫についての理解を深めることで、寓意を読み解いていった。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

9:12 ペアワーク、意見共有



再びペアで話し合い、発表した。「こだまはおうむ返しをしているだけだけれど、キツネは王子と意思疎通ができていた」と言う生徒に、島田先生が、「なぜ、そう思うの?」と尋ねると、別の生徒が「主語が変わっているから」と発言。先生は「その通りだね」と、内容を整理する板書を行った。

しまだ・りょう 教職歴11年。同校に赴任して7年目。進路指導部長。国語科。大学院では文学を専攻。深く読み解く力を養うことを目指している。

学校概要

◎2011年度から単位制を導入。「遠高で『ホンモノ』を目指そう」をキャッチフレーズに、「探究することを中心に据えた学習活動を展開。22年度は、重点目標として「学び方の転換」「論理的思考様式の育成」「これからの社会を創る市民を養成」の3つのTRY」を掲げる。21年度に吹奏楽局や陸上競技部が全国大会に出場した。

◎設立 昭和3（1928）年

◎形態 全日制・定時制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約170人（全日制）

◎2022年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、小樽商科大、北見工業大、北海道教育大、室蘭工業大、茨城大、釧路公立大、公立千歳科学技術大、名寄市立大、青森県立保健大、都留文科大に24人が合格。私立大は、札幌保健医療大、北海道医療大、駒澤大、順天堂大、成城大、専修大、日本大、神奈川大などに延べ79人が合格。



9:05 ペアで話し合った内容を発表



ペアで話し合った内容を発表。ある生徒は、「こだまは王子の言葉を返すだけなのに対して、キツネは王子に話しかけている」と指摘。すると島田先生は、「2つの対話は似ているけれども、違う点もあるようだね。どこが違うのか、もう少しペアで考えてみよう」と問いかけた。

8:55 対話形式の音読、ペアワーク



「王子とこだまとの対話」について、まずは疑問点を明確にするために、島田先生が王子役、2人の生徒がこだま役とナレーター役となり、音読した。続いて、「王子とキツネとの対話」を音読し、こだまとの対話とキツネとの対話にどのような違いがあるのかを、席が隣同士の生徒で話し合った。

本時のキー課題

9:25 グループワーク、振り返り



島田先生は各グループを回りながら、「言葉を繰り返す意味は何だろうか？」などと、寓意を読み取るためのヒントを投げかけた。加えて、「その意見は最高だね」といった、生徒の発言を肯定する声かけを繰り返した。最後に、グループで話し合った内容をワークシートに記入した。

9:18 グループで寓意を考察



島田先生は、「なぜ、作者はこだまの話を出したのか、寓意を読み取ろう」と、課題を提示。生徒は、4～5人のグループを組み、話し合った。あるグループは、「相手の言葉を受け止めるのが、本当のコミュニケーションだと思う」と気づきを述べ合い、「対話の重要性」が寓意だと読み取っていた。

●私が目指す授業

授業展開や問いを工夫し、
教えるのではなく、気づかせる

大学院を修了して国語科の教師になった頃は、論理的な読み方を体系立てて教えることに力を入れていました。しかし、私がどのように言葉を尽くしても、生徒が作品を深く理解できていないという手応えを感じられませんでした。実際、センター試験の現代文で出題された、表現や文章構成の工夫を根拠に作者が込めた思いを読み取る問題などに、多くの生徒が答えられませんでした。

そこで、作者が作品中に散りばめた表現や文章構成の工夫に、生徒が気づけるような授業展開や問いを考えることにしました。「何か作者の工夫がありそうだけれど、その意図や効果に分からない」と、生徒が引っかかりを覚えた描写を題材として、私は、それを読解するためのヒントを提示することなどに徹しています。

生徒が、授業を通じて表現や文章構成の重要性を理解することで、自分でも思いや意見を的確に伝えようと、それらを工夫するようになることを目指しています。

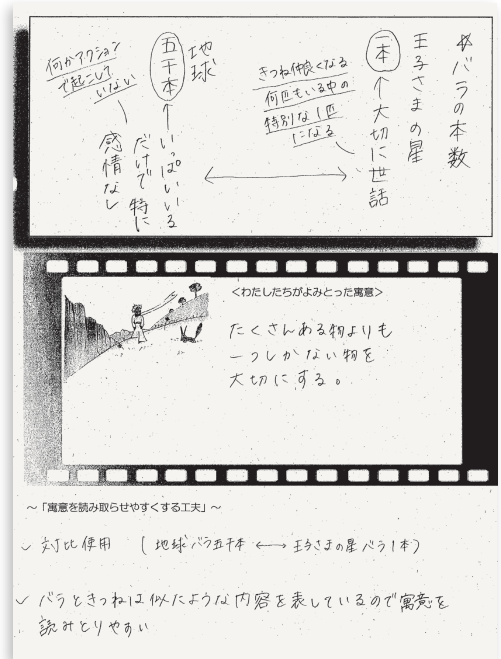
●私の発問・課題設定の観点

生徒が読解できなかった部分を取り上げて、理解を深める

2022年度からは、観点別学習状況の評価を適切に行うため、国語科の3人で、教材や進度、評価の方法・基準を統一して授業を行っています(COLUMN参照)。『星の王子さま』では、物語から根拠をもって寓意を読み取り、それを生徒間で共有することで、自分では気づかなかったことを知るとともに、論理的思考力や表現力を育もうと3人で考えました。教材等は統一しましたが、寓意をどう読み取るのかは、各教師が考えました。私は、最初に「スイッチ・マン」の話を取り上げ、電車に乗っている大人と子どもの対比関係から、大人は大事なものを見失っているが、子どもは好奇心旺盛だといった寓意が読み取れると解説しました。

次に、グループごとに場面を選んで寓意を読み取る活動を行いました。あるグループは、火山とバラとキツネの話から、地球のバラ5000本と、王子の星の1本のバラという対比を根拠に、「たくさんあるものよりも、1つしかないものが大切」といった寓意を読み取っていました(図)。

図 生徒が読み取った寓意(例)



※学校資料をそのまま掲載。

好奇心や学ぶ姿勢につながる「なぜ？」を引き出す

授業では、「なぜ、このような表現にしたのかな?」「この表現に対応する場面は何だろ?」などと問いかけながら、生徒たちとやり取りする中で、読解を深められるようにして

そして本時では、前時に多くの生徒が読み取れなかった「王子とこだまの対話」を考察することにした。前時で理解できなかった寓意を、本時の課題に取り組むことで理解できるようになると、生徒の期待を高めることが、主体的な思考を促すための仕かけです。

本時では、王子とこだま、王子とキツネとの対話には、応答の仕方や主語の違いがあることを、生徒が気づけるような工夫をしました。私と生徒との対話形式の音読では、気づいてほしい部分を強調して読み、板書では、最も違いが表れている部分を抜き出しました。すると、その違いにある生徒が気づきました。そこで、「似ているようで、なぜ、違っ

か、作者の意図を考えてみよう」と発問すると、意欲的に自分の考えを発言する姿が見られました。そのようにして、文章構成の工夫を読み取れるようになれば、どんな文章も読解できるようになると考えています。難解な評論でも、「ここは具体例だから、さっと流している」「ここは筆者が強調したいところなので、反語が用いられている」などと、根拠をもって筆者の意図を捉えることができるようになるでしょう。

生徒が記入したワークシートや発表資料等は、「コピーしてクラス全体に配布し、自分がよかったと思う他者の意見について感想を述べ合う活動を行うこと」もあります。生徒は、友人とのコミュニケーションの中で気づきを得た時に、深い理解に至ると思うからです。「ここといった意見を面白いと感じるのか」「ここまでの表現や言葉があるのか」といった気づきを得ることを期待しています。

次時以降は、『夢をかなえるゾウ』『金持ち父さん 貧乏父さん』を読み、本時と同じように、寓意を読み取る活動を行い、単元末には、生徒一人ひとりが寓話を創作する予定です。学習評価は、国語科で作成したルーブリックを使って行っています。「知

COLUMN

組織的な授業実践を実現するために

国語科主任 鈴木涼太先生



主任として音頭を取り、2022年度からは、国語科全体で教材等を統一して授業を行うことにしました。以前から、定期考査の点数のみで評価を行うのではなく、生徒の普段の取り組みを評価の対象にしたいという思いがありました。そこで、新学習指導要領を見据え、2021年度、私と同学年の担当の2人で、教材や進度、評価方法を統一して授業を行ったところ、授業の展開は各自の個性が発揮されつつ、ルーブリックを運用することで、普段の取り組みを適切に評価することができるようになり、また、教師間の評価がぶれないことが分かりました。

最大の利点は、他の教師の指導が見えるようになったことです。これまで、授業は教師個々に任されていたため、よい教材や発問を共有しにくいもどかしさがありました。ワークシートや評価基準をそろえたことで、おのずと授業内容について話す機会が増え、指導ノウハウの共有が一気に進みました。よいものはどんどん自分の授業に取り入れて、生徒に還元していきたいと思います。

●成果と展望
コミュニケーション力を育む、豊かな言語環境を模索

識・技能」は、定期考査の文章読解などの問題で、「思考・判断・表現」は、単元の最後に課すテスト、またはレポートで、「主体的に学習に取り組む態度」は、ワークシートや振り返りシートなどで見取って、評価しています。

以上のような授業を続けてきた結果、生徒は文章構成の工夫に触れることを楽しむようになったと感じています。学習意欲が高まり、知識・

技能が定着しやすくなっているようです。また、理解できないことを「分からない」と言えたり、根拠を示しながら自分の意見を説明したりする生徒も増えていきます。

インターネット上には、人を傷つける言葉が氾濫しています。授業では、対話をする中で自分の言葉が他者にどのように響くのかを感じ取り、安易に強い言葉や批判的な表現を使うことの危険性を知ること、重要な学びです。生徒にコミュニケーション力が育まれる豊かな言語環境を提供するにはどうすればよいのかも、模索していきたいと思っています。

単元の指導計画

【教科・科目】国語・現代文B 【分野・単元】小説 【テーマ・作品】『星の王子さま』『夢をかなえるゾウ』『金持ち父さん 貧乏父さん』
【設定時数】全8時間（本時は4時間目） 【単元目標】言葉の働きを考える（寓意）

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価 方法
1	・授業のオリエンテーション ・『星の王子さま』の通読	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。 【知識、技能、主体性】	①授業の進め方を説明。 ②『星の王子さま』を通読する。	【深い学び】言葉が持つ力について、短歌で例示する。	
2	・『星の王子さま』の「スイッチ・マン」の読解		①『星の王子さま』の「スイッチ・マン」の話を個人で読む。 ②個人で読解した内容をグループで共有する。	【深い学び】読み取った寓意がどのような要素と結びついているのかを理解させる。	
4	・『星の王子さま』の読解を通じて、寓意の効果を高めている表現の工夫を追究	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。 【知識、技能、主体性】	①多くの生徒が理解できていなかった部分を取り上げ、ペアで疑問点を話し合う。 ②ペアで話し合った内容を発表。 ③該当の部分から読み取れる寓意について、グループで考察する。	【深い学び】生徒とやり取りしながら発問を繰り返して、文章を対比させたり、別の表現を持ち出したりして、考えが深まるようにする。	ワークシート
5	・『夢をかなえるゾウ』を読み、グループワークで寓意を読み取る	他の作品と比較することで、文体の特徴や効果についての自身の考えが持て、深く考察することができる。 【思考力、判断力、表現力】	①『夢をかなえるゾウ』を読む。 ②グループごとに好きな部分を取り上げ、寓意を読み取る。 ③グループで話し合った内容を発表する。	【主体的な学び】グループで相互評価を行う。【対話的な学び】正解は1つではないことを繰り返し伝え、寓意を読み取った根拠をグループ内で説明し合うよう促す。	ワークシート

※島田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全8時間分は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』(https://view-next.benesse.jp/) からダウンロードできます。TOP→学校教育情報誌『VIEW next』→高校向けバックナンバー』をご覧ください。